

令和3年度  
事業報告書



日本赤十字社 埼玉県支部  
Japanese Red Cross Society

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

# はじめに

赤十字事業の推進につきましては、赤十字会員、ボランティア、地区・分区関係者をはじめとした多くの県民の皆様からの温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

日本赤十字社埼玉県支部では、「苦しんでいる人を救いたい」という思いのもと、令和3年度も県内赤十字施設一体となり、赤十字思想に共感してくださる皆様と共に赤十字事業に取り組んでまいりました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計画どおりに実施できない事業も多くなりましたが、例えば前年度は中止した災害救護訓練や救急法等の講習会、青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターについて、感染防止の徹底を第一に内容や方法を工夫しながら再開するなど、「ウィズコロナ」における事業実施に努めました。

そして、赤十字事業を支える会員の増強及び活動資金募集活動では、厳しい経済情勢の中、地区・分区をはじめ関係する皆様のご尽力により、多くのご協力をいただきました。

また、さいたま・小川・深谷の各赤十字病院では、地域の基幹病院として質の高い医療を提供するとともに、新型コロナウイルス感染症患者の受入れやワクチン接種に積極的に取り組んでまいりました。

特別養護老人ホームでは、感染者発生の予防に全力を尽くしながら、利用者に対するサービスの充実に努めました。

血液事業では、献血者減少に伴う供給数不足が懸念される中、安全な血液製剤の安定的な確保に向けて啓発活動を強化するとともに、献血会場の密を防止するために予約献血を推進しました。

このように赤十字事業を進めることができましたのは、ひとえに皆様のお力添えの賜物であり、心から深く感謝申し上げます。

これからも「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ため、県内赤十字施設と力を合わせて取り組んでまいります。

今後とも赤十字事業に対し、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

日本赤十字社埼玉県支部

# 目 次

## 事業報告

災害救護活動	2
救急法等の講習	5
赤十字ボランティア	7
青少年赤十字	9
医療事業	11
社会福祉事業	12
新型コロナウイルス感染症への対応	13
血液事業	14
広報活動	15
国際活動	17
看護師の養成	18

## 資 料

令和3年度 歳入歳出決算	19
埼玉県支部について	21
県内赤十字施設一覧	23

※令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）における取組実績及び  
令和4年3月31日時点の情報を基に作成しています。

# 災害救護活動

令和3年度 歳出額 93,618千円

## 災害から一人でも多くのいのちを救うために

災害救護活動は日本赤十字社の最も重要な事業のひとつであり、社会から求められる大きな使命です。そのため、災害時に備えて常備医療救護班 10 個班（1 個班標準 6 人編成）、血液供給要員及び災害対策本部要員を救護員として 181 人登録し、救護訓練や研修を実施して研鑽に努めるなど、救護体制に万全を期しています。

その他、救護装備等の充足整備、被災者への救援物資の配分、弔慰金の贈与、義援金の受付など、それぞれの災害の規模や状況に即して幅広い対応を行いました。

### ①災害救護活動

令和3年度は、救護班等の派遣はありませんでした。

### ②訓練・研修会等

いつどこで起こるか分からない災害に備え、関係機関とも連携して迅速な救護活動ができるよう様々な被災状況を想定した訓練や、救護員の資質の向上を図るための研修会等を行いました。

<訓練>

名称	日程	開催場所等	参加人数等
第 42 回九都県市合同防災訓練 ※市主催 (さいたま市会場)	11 月 6 日	荒川総合運動公園 (さいたま市桜区)	さいたま日赤救護班 1 班 支部職員 4 人
日本赤十字社本社・第 2 ブロック 支部災害救護訓練	11 月 20 日	栃木県支部	さいたま日赤救護班 1 班 支部職員 4 人
埼玉県特別機動援助隊 (埼玉 SMART) 合同訓練 ※県主催	2 月 9 日	越谷市	さいたま日赤 7 人
埼玉県特別機動援助隊 (埼玉 SMART) DMAT ホイスト降下訓練 ※県主催	7 月 9 日	埼玉県防災航空 センター	さいたま日赤 4 人 深谷日赤 4 人
日本赤十字社第 2 ブロック支部 先遣要員訓練	1 月 26 日	オンライン実施	支部職員 2 人
埼玉版 FEMA 訓練 ※県主催	2 月 16 日 3 月 22 日	埼玉県支部 (オンライン)	支部職員 3 人
支部災害対策本部訓練	3 月 14 日	埼玉県支部	支部職員 23 人



支部災害対策本部訓練

<研修会>

名称	日程	開催場所等	参加人数等
日本赤十字社埼玉県支部 救護班要員研修会	10月27日 ～29日	ヘリテイジ美の山 (皆野町)	管内施設職員 57人 支部職員 9人
日赤災害医療コーディネーター研修会 ※代替として日赤災害医療コーディネーター フォローアップ研修会を実施	3月13日	管内各施設 (オンライン実施)	管内施設職員 19人 支部職員 5人
こころのケア指導者養成研修会	11月29日 ～12月1日	オンライン実施	支部職員 1人
救護員としての赤十字看護師 研修会	2月 1日 3月 7日	さいたま赤十字病院 小川赤十字病院 深谷赤十字病院	管内施設職員 72人 支部職員 3人
こころのケア研修会	3月 4日 3月11日	さいたま赤十字病院 小川赤十字病院 深谷赤十字病院	管内施設職員 43人 支部職員 1人
支部職員対象スキルアップ研修	9月14日 10月19日 12月22日 1月21日 3月 3日	埼玉県支部	支部職員 計69人
災害救護ロジスティック要員研修会	12月14日 1月14日	埼玉県支部	管内施設職員・支部職員 延べ 36人
日赤看護大埼玉キャンパス 災害看護活動論	2月21日 22日 25日	埼玉県支部(オンライン開催) 日本赤十字看護大学さいたま看護学部	支部職員 3人



日本赤十字社埼玉県支部救護班要員研修会



災害救護ロジスティック要員研修会

### ③救護装備・資材の整備等

◇地域における災害救護体制の整備を目的に策定した「日本赤十字社埼玉県支部地区・分区救護装備・機器配備要綱(第6次3か年計画:令和元年度～3年度)」に基づき、地区・分区向けに23品目の資材(プライベートテント、簡易ベッド、LPガス発電機等)を配備。

◇救護活動用の各種感染防護資材(サージカルマスク・ニトリル手袋等)を整備。

◇県内での火災等小規模災害の被災者に向けた救援物資（布団セット 283 組、毛布 261 枚、緊急セット 164 セット）を地区・分区に配分。また、災害弔慰金として 820,000 円（36 件）を支給。

◇7 地区に対し赤十字救援車 7 台を配備。



救護用資材（プライベートテント・簡易ベッド・LP ガス発電機）



災害救援物資（布団セット・毛布・緊急セット）

#### ④ その他の救護活動

各行事における臨時救護要員として、職員とボランティアを派遣しました。

名称	日程	場所	参加人数等
東京 2020 オリンピック バスケットボール会場 医療救護	7月 25日 ～8月 8日	さいたまスーパーアリーナ	管内施設職員 延べ 116 人 ※「会場医療責任者」、「会場医療副責任者」としての医師派遣含む
大宮氷川神社 雑踏救護	12月 31日 ～1月 3日	大宮氷川神社 (さいたま市大宮区)	支部職員 8人 管内施設職員(看護師) 6人 ボランティア 20人

#### ⑤ 義援金の受付

国内の災害に対する義援金を受け付け、被災地に送金しました。

義援金名	件数	金額
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	114 件	765,082 円
令和 2 年 7 月豪雨災害義援金	236 件	2,320,281 円
令和 3 年 2 月福島県沖地震災害義援金	94 件	754,899 円
令和 3 年島根県松江市大規模火災義援金	55 件	347,348 円
令和 3 年 7 月大雨災害義援金	227 件	2,575,973 円
令和 3 年台風第 9 号等大雨災害義援金	103 件	917,704 円
令和 3 年 8 月大雨災害義援金	192 件	1,629,094 円
令和 3 年長野県茅野市土石流災害義援金	113 件	618,135 円
令和 4 年 3 月福島県沖地震災害義援金	3 件	24,643 円
計	1,137 件	9,953,159 円

# 救急法等の講習

令和3年度 歳出額 35,348千円

## とっさの手当ができる人を一人でも増やしていくために

応急手当の知識と技術を学ぶことで一般の方でも尊い命を救うことができるように講習会を開催しています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延により、多くの講習で既定のカリキュラムでの実施は困難となりましたが、受講者や指導員等の安全を確保しながら集合型の短期講習やオンラインによる講習を中心に実施し、一人でも多くの人に習得いただけるよう講習普及に取り組みました。

### ①救急法

一次救命処置（心肺蘇生法とAEDの使い方）やけがの手当についての知識と技術を学ぶ講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数	概要
基礎講習	19回	319人	傷病者の観察の仕方、一次救命処置等救急法の基礎
救急員養成講習	5回	76人	急病の手当、けがの手当、搬送及び救護
短期講習	112回	2,965人	基礎講習及び救急員養成講習の内容の一部

### ②水上安全法

水の事故から命を守るための知識と技術を学ぶ講習を、内容を工夫して実施しました。講習の内容から、マスクの着用などの感染防止対策がとれない講習は中止しましたが、代替として、大きなタライや会議室をプールに見立てた「水に入らない着衣泳」や「プールの安全管理」の短期講習などを実施しました。また、オンラインでも受講できるハイブリッド型の講習会を試行しました。

講習会名	回数	受講者数
救助員Ⅰ養成講習	開催なし	—
救助員Ⅱ養成講習		
短期講習	13回	526人



水上安全法短期講習のオンライン配信（ハイブリッド開催）



水に入らない着衣泳

### ③健康生活支援講習

家庭における高齢者の健康管理、介護予防、介護の仕方等の知識と技術を学ぶ講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数
支援員養成講習	開催なし	—
災害時高齢者生活支援講習	5回	174人
短期講習	3回	39人



#### ④ 幼児安全法

子どもの事故予防や応急手当、看病の仕方等の知識と技術を学ぶ講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数
支援員養成講習	開催なし	—
短期講習	51回	691人

#### ⑤ 防災教育事業

防災意識の啓発と災害から身を守るための知識と実技を学ぶ講習を実施しました。

名称	対象者	回数	受講者数
赤十字防災セミナー	奉仕団員等	7回	150人
	一般市民・町民、その他	6回	116人
防災教育プログラム	児童生徒・教員等	12回	1,991人

#### ⑥ 講習普及を担うボランティアの育成

講習事業の普及推進のため、各奉仕団が主体となり団員を対象に研修を行いました。

講習会名	回数	参加者数
埼玉県子育て介護赤十字奉仕団 研修会・勉強会	7回	65人
埼玉安全赤十字奉仕団 研修会・勉強会	7回	162人

#### ⑦ 講習指導員の養成

講習普及体制を充実・強化するため、指導員の養成と研修によるスキルアップを図りました。

〈指導員養成講習〉

名称	日程	養成人数
赤十字救急法指導員養成講習	12月4日～5日、11日～13日 (5日間)	16人

〈指導員研修会〉

名称	開催方法	参加人数
幼児安全法指導員研修会	集合型	95人
健康生活支援講習指導員研修会	書面	75人
水上安全法指導員研修会	集合型	55人
救急法指導員研修会	集合型	213人

〈救急法等指導員在籍状況〉

	赤十字職員	ボランティア	計
救急法指導員	98人	115人	213人
水上安全法指導員	5人	50人	55人
雪上安全法指導員	1人	4人	5人
健康生活支援講習指導員	37人	38人	75人
幼児安全法指導員	42人	53人	95人



赤十字救急法指導員養成講習会

# 赤十字ボランティア

令和3年度 歳出額 25,734千円

## 地域や赤十字を支える大きな力

地域のボランティアが主体となって、人道博愛の精神のもとに災害時の救援活動、献血の推進、障がいを持つ方や高齢者の福祉向上のための奉仕活動などを実践し、明るく住みよい地域社会づくりに貢献しています。また、地域や団体ごとに工夫を凝らしたPRに努め、赤十字のすそ野を広げる活動も推進しました。

### ① 奉仕団数及び団員数

地区別	区分	管内総数	結成地域数	結成率	団数	団員数
地域奉仕団（市・区）※1		49	28	57%	28	4,204人
〃（町・村）		23	21	91%	21	1,551人
	小計	72	49	68%	49	5,755人
青年奉仕団		-	-	-	1	14人
特殊奉仕団※2		-	-	-	9	932人
救護ボランティア		-	-	-	-	57人
	合計	72	49	68%	59	6,758人

※1 さいたま市を除く市及びさいたま市内10区の合計

※2 マジック、安全、さいたま赤十字病院ボランティア、ナース、支部援助、水上安全、青少年赤十字賛助、子育て介護、埼玉工業大学（大学職員・学生）

### ② 主な活動内容

各奉仕団や個人登録ボランティアは、地域や赤十字のニーズに応じた様々な活動を、新型コロナウイルスの感染に留意し創意工夫しながら行いました。

#### ◇地域奉仕団

- 赤十字会員の募集
- 国内義援金・海外救援金の募集
- 防災学習
- 炊き出し等災害時対応訓練
- 献血推進
- 社会福祉施設における活動 等

#### ◇青年奉仕団

- 青少年赤十字高校生対象行事の運営補助
- 手話学習 等

#### ◇特殊奉仕団

- 救急法等の普及・指導
- 青少年赤十字の普及・指導
- その他赤十字事業への協力 等

#### ◇救護ボランティア

- 支部所有の救護装備・資器材の技術的点検、整備 等



国内義援金の募集を行う鴻巣市赤十字奉仕団



ワクチン集団接種会場で消毒作業を行う伊奈町赤十字奉仕団  
(日本薬科大学)



交流会で芸を披露するマジック赤十字奉仕団

### ③赤十字ボランティアを対象とした主な研修

ボランティア活動に必要な知識や技術のスキルアップや、活動の推進役・牽引役となるリーダーの養成を図るため、オンラインも活用しながら各種研修を実施しました。

名称	日程	開催場所	参加人数
ボランティア基礎研修会	第1回 6月24日	坂戸市文化会館	12人
	第2回 6月30日	埼玉県支部	24人
	第3回 7月7日	熊谷市妻沼公民館	14人
赤十字ボランティア・リーダー研修会 (本社主催)	(地域・特殊奉仕団対象) 10月28日~29日	埼玉県支部 (オンライン)	代表 1人
	(青年奉仕団対象) 10月30日~31日	埼玉県支部 (オンライン)	代表 1人
防災ボランティア・リーダー養成研修会 (本社主催)	2月5日	埼玉県支部 (オンライン)	代表 1人



ボランティア基礎研修会

## 豊かな心をもった青少年を育てるために

未来を担う青少年が、赤十字精神に基づき「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げ、活動を通して自ら「気づき、考え、実行」できるよう、学びの機会を提供しています。  
学校教育や幼児教育の中で教員・保育士などが指導者となり活動を展開しました。

### ①青少年赤十字加盟校の状況

新たに26校が加盟し、617の学校（園）で約20万人のメンバーが活動を行いました。

	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
学校数	130園	263校	158校	64校	2校	617校(園)
メンバー数	17,425人	113,235人	61,944人	12,914人	182人	205,700人

### ②主な活動内容

- ◇青少年赤十字メンバー（児童・生徒）の育成
  - リーダー養成研修会（リーダーシップ・トレーニング・センター）の開催
  - 高校生協議会活動への支援等（学習会の実施）
  - 姉妹赤十字社ユースメンバーとの交流 等
- ◇青少年赤十字指導者（教員）の育成
  - 研究協議会（活動実践報告会）の開催、指導情報紙や指導教材の提供 等
- ◇加盟校（園）の活動強化
  - 研究奨励費の交付と研究集録の作成・配布、防災教育やコロナ下における人権教育などの普及促進、出前授業の実施 等
- ◇加盟促進に向けた取組
  - 校長会、県教育委員会及び市町村教育委員会への加盟促進依頼
  - 埼玉県青少年赤十字賛助奉仕団員を中心とした未加盟校への学校訪問、教材提供 等

#### 〈リーダー養成研修〉

名称	日程	開催場所・方法	参加人数
小・中学生リーダーシップ・トレーニング・センター ※代替として「小・中学生1日防災学習プログラム」を実施	7月29日 8月1日	首都圏外郭放水路 他 埼玉県防災学習センター	児童・生徒 26人 指導者 13人 (2日間計)
高校生リーダーシップ・トレーニング・センター	12月25日 ～26日	埼玉県支部	生徒 15人 指導者 8人
青少年赤十字創設100周年直前 令和3年度青少年赤十字 スタディー・プログラム(※) ※スタディー・センターの代替として実施	12月25日 ～26日	オンライン実施 ※埼玉県支部にて高校生リーダーシップ・トレーニング・センターと合同開催	生徒 13人
北埼玉地区リーダーシップ・トレーニング・センター	7月28日	オンライン実施	児童・生徒 46人 指導者 23人
埼玉葛地区リーダーシップ・トレーニング・センター	8月3日	オンライン実施	児童・生徒 82人 指導者 26人

〈姉妹赤十字社ユースメンバーとの交流〉

名 称	日 程	開催方法	参加人数等
香港赤十字社RCYメンバーとの オンライン交流会	8月28日	オンライン	高校生 11人 指導者 3人
大韓赤十字社京畿道支社 JRC/RCYメンバー訪問団交流事業	11月13日	オンライン	高校生 27人 指導者 6人
インドネシア赤十字社RCYメンバーとの オンライン交流会	1月29日	オンライン	高校生 5人 指導者 1人



高校生リーダーシップ・トレーニング・センターでの活動発表



小・中学生 1 日防災学習プログラムでの施設見学



人権教育出前授業

# 医療事業

令和3年度 歳出額 54,418千円

## 医療を必要とする人の健康を守るために

高度化、専門化の進む医療環境に対応するため、日本赤十字社では医療事業推進本部制をとり、健全かつ安定的な病院運営の確保に向けてグループ運営を進めています。

県内においては各地域の中核医療機関として、高度医療、救急医療、周産期医療、保健衛生活動の中心的役割を担っているほか、新型コロナウイルス感染症患者の治療・入院受け入れや病床確保に努めるなど、赤十字の理念に基づく幅広い医療事業を展開しました。

### さいたま赤十字病院 638床（一般632床・精神6床）

高度救命救急センターや隣接する県立小児医療センターと連携して総合周産期母子医療センターを運営するなど、県南地域の中核病院として高度で専門的な医療を提供しています。

常備救護班登録 4班

内訳) 医師8人、看護師長4人、看護師8人、  
薬剤師4人、主事12人



### 小川赤十字病院 302床（一般252床・精神50床※休止中）

県西地域（比企）の中核病院として地域の救急医療に取り組むほか、訪問介護ステーション、精神科デイケアセンターを併設し、地域に根差した医療を担っています。

常備救護班登録 3班

内訳) 医師3人、看護師長3人、看護師6人、  
薬剤師3人、主事6人



### 深谷赤十字病院 474床（一般468床・感染症6床）

県北地域の基幹病院として、ヘリポートを有した第三次医救急医療を担う救命救急センターなど高度な救命機能を保持しつつ、骨髄移植や臓器提供施設等の機能を併せ持つ災害拠点病院です。

常備救護班登録 3班

内訳) 医師3人、看護師長3人、看護師6人、  
薬剤師3人、主事6人



〈入院外来別延べ患者数〉

	さいたま赤十字病院	小川赤十字病院	深谷赤十字病院
入院患者数	199,493人	69,757人	118,473人
外来患者数	342,922人	136,550人	181,055人

# 社会福祉事業

令和3年度 歳出額 44,894千円

## 支援を必要とする人の尊厳を守るために

2つの特別養護老人ホームでは、地域住民やボランティア等の協力を得て施設の運営をしており、災害時の要援護者支援施設として福祉避難所に指定されています。

また、協力病院と連携した健康管理や理学療法士による身体機能維持に努めながら、利用者一人ひとりの個性を尊重し、自立した生活を営めるよう、質の高いサービス提供を心がけました。

### 特別養護老人ホーム 小川ひなた荘

隣接する小川赤十字病院との連携により、医療依存度の高い利用者に対しても迅速な対応ができる体制を整え、地域高齢者の福祉向上に努めています。



お正月恒例の餅つき大会（小川ひなた荘）



#### 運営・処遇方針

- ◇利用者の人権の尊重と心の通い合う介護の実践
- ◇利用者、家族への十分な説明と同意によるサービスの提供
- ◇地域に根差した透明性のある施設運営

#### 利用実績

- ◇介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）  
・・・ 一日平均 53.7人  
(定員 55人)

### 特別養護老人ホーム 彩華園

平成17年に埼玉県から移管を受けて以来、日本赤十字社が運営を行っており、「利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動する」という精神のもと、「認知症ケア」、「看取りケア」、「口腔ケア」の3つのケアを重点項目として取り組んでいます。

#### 運営・処遇方針

- ◇認知症になってもその方らしさが失われることなく生活できるように支援する（「認知症ケア」）
- ◇安らかな最期を迎えられるようご本人やご家族と一緒に「看取りケア」に取り組む
- ◇できる限り口から美味しく食事がとれるように多職種で「口腔ケア」に取り組む

#### 利用実績

- ◇介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）・・・ 一日平均 86.7人（定員 88人）
- ◇短期入所生活介護事業（ショートステイ）・・・ 延べ 3,462人
- ◇通所介護事業（デイサービス）・・・ 延べ 3,124人
- ◇居宅介護支援事業所・・・ 延べ 306人



# 新型コロナウイルス感染症への対応

**各赤十字病院** は、埼玉県が指定する「重点医療機関」として新型コロナウイルス感染症陽性患者の入院治療にあっています。

発熱等コロナ疑い患者の検査・診療や、重症化予防や感染リスク低減のための市民へのワクチン接種にも協力し、院内感染対策に重点を置きながら各病院の役割を果たしました。



全身防護服を着て患者対応にあたる医師・看護師  
(左：小川赤十字病院 右：深谷赤十字病院)



	さいたま赤十字病院	小川赤十字病院	深谷赤十字病院
令和3年度受入患者数	384人	264人	282人

**特別養護老人ホーム** では、施設内の消毒の徹底や職員の定期的なPCR検査の実施、入所者の早期のワクチン接種などの感染防止に努めました。その結果、施設内での入所者のコロナ感染をゼロに留めることができました。

実習生やボランティアの受入れ中止などにより、施設の利用者が楽しみにしている交流の機会が減ってしまいましたが、窓越しの面会を実施するなど工夫しながら利用者とそのご家族のニーズに応えました。



窓越しで面会する様子  
(左：彩華園 右：小川ひなた荘)





# 血液事業

令和3年度 歳出額 16,867千円

## 血液を必要とする患者のもとに 24時間365日必ず届けるために

県内に7か所の献血ルームを開設し、街頭で献血協力の呼びかけを行っているほか、献血バスを各地へ運行し安全性の高い輸血用血液を安定的に確保し、医療機関に供給しています。

急速な少子高齢化により全国的な献血協力者の減少に加え、令和3年度は新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響を受ける中、行政や地域、関係機関と連携して協力を呼び掛けたほか、各種キャンペーンを積極的に展開し、血液の確保に取り組みました。



埼玉県赤十字血液センター

### ①献血状況

〈令和3年度献血者数〉

献血種別	献血者数
200mL	11,196人
400mL	160,624人
成分献血	69,122人
計	240,942人

〈献血者数・献血者の推移〉



※献血率(%) = 県内献血者数 / 総務省発表の県人口 × 100

### ②実施事業

**イベント・キャンペーン** ※は埼玉県独自のイベント・キャンペーン

- 新社会人献血キャンペーン [4月～6月]
  - 彩の国さいたま「愛の血液助け合い運動」 [7月～8月] \*
  - 初回献血+ラブラッド登録キャンペーン [9月～11月]
  - はたちの献血キャンペーン [1月～2月]
  - シニア60～64 初回献血キャンペーン [1月～3月]
  - 卒業献血キャンペーン [2月～4月]
  - 大宮アルディージャ献血応援キャンペーン [5月、6月、7月、8月、9月、12月] \*
  - クリスマス献血キャンペーン2021 [12月] \*
- (協力：埼玉西武ライオンズ)



### その他の取り組み

- 血液に関する出前講座 [通年] / #彩の国けんけつNEWS [通年]
- 献血推進ポスターコンクールの実施 [8月]

## 赤十字をもっと知っていただくために

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント等の開催に大きな制約がありましたが、このような状況下にあっても赤十字の理念や活動について広く県民の皆様の理解と協力をいただくため、様々な機会や方法により広報活動を行いました。

### ① イベントの開催・参加

#### ◇赤十字運動月間における街頭PR活動 [5月12日 JR浦和駅東口]

事業紹介パネル等を用いて、赤十字運動月間の開始をPRしました。

#### ◇レイクタウンアクトグリーンエコウィーク2021への参加

[10月2日～3日：イオンレイクタウン（越谷市）]

越谷市、イオンレイクタウンなどが主催するアクトグリーンエコウィーク（防災フェス特別版）に参加し、救急車や救急物資・赤十字事業紹介パネル等の展示、新型コロナウイルス感染症に関する啓発動画の放映、募金活動や赤十字事業紹介リーフレット等の配布を行いました。

#### ◇赤十字活動PRイベント plus 献血の開催 [11月14日：イオンモール羽生（羽生市）]

血液センターの献血実施とあわせて、イベントスペースに救急法や防災教育の体験ブース、災害救護用テントや避難所で使用するダンボールベッド等の見学ブースを設け、赤十字活動をPRしました。



赤十字活動PRイベント（イオンモール羽生）

## ②テレビ・新聞・ラジオ等による広報

赤十字会員増強運動月間や防災啓発等を中心に、新聞紙面への広告掲載やテレビでスポットCMを放映しました。

また、地域エフエムラジオ放送の番組に職員が生出演し、赤十字の活動と「新型コロナウイルスの3つの顔(病気・不安・差別)」の紹介をしました。



サテライトスタジオ FM CHAPPY でのラジオ出演

## ③ホームページ・SNSによる広報

災害対応やイベントの告知、実施した事業などについて埼玉県支部公式 Facebook でタイムリーに情報発信しました。また、「YouTube」の埼玉県支部公式チャンネルで事業を紹介する動画を制作し、配信しました。

そして支部ホームページにも同じ情報を掲載することで、SNS を利用していない層に対しても情報を届けました。

**日本赤十字社埼玉県支部**  
2021年10月25日

★ 支部主催講習の感染対策をご紹介します ★

当支部では、緊急事態宣言期間の終了に伴い10月から講習を再開しています。

支部主催講習においては、できる限りの感染対策を施し開催しておりますので、今回はその取り組みをご紹介します！

受講者の皆様にもご協力いただくことがありますが、安心・安全な講習の実施のため、ご理解いただきますようお願い致します。

講習のお申込みはこちら↓  
[https://www.jrc.or.jp/.../about/topics/2021/1025\\_021004.html](https://www.jrc.or.jp/.../about/topics/2021/1025_021004.html)

#日本赤十字社 #埼玉県 #人道 #健康安全 #救急法 #幼児安全法  
#健康生活支援 #水上安全法 #firstaid #CPR #AED #講習  
#コロナ #感染対策 #redcross #redcrescent

講習会における **感染症の予防に**  
**取り組んでいます！**

アルコール消毒液の設置	アクリルパネルの設置	座席の間引き	CO2モニターの設置	入館時の検温
訓練人形の十分な間隔確保	窓開け・空調による換気	マスク着用の徹底	<input checked="" type="checkbox"/> 埼玉県LINEコロナお知らせシステムの登録依頼 <input checked="" type="checkbox"/> 健康チェック表による受講者・指導員の体調確認 <input checked="" type="checkbox"/> 指導員による講習実施前の会場環境確認 <input checked="" type="checkbox"/> 使用した資機材のアルコール消毒 受講者の皆様も感染対策にご協力をお願いします。	

安心してお申込みください！

講習会における感染症予防の取り組みを紹介 (Facebook に掲載)

### YouTube で配信した動画

- ▶ 正しいマスクの着け方
- ▶ はがれにくい絆創膏の貼り方【指先】
- ▶ はがれにくい絆創膏の貼り方【みずかき】
- ▶ はがれにくい絆創膏の貼り方【指関節】
- ▶ ハートラちゃん実践！熱中症予防のポイント
- ▶ Perform Basic Life support in COVID-19 situation.(CPR&AED)

※コロナ禍における救急法の解説動画（英語版）



配信動画「ハートラちゃん実践！熱中症予防のポイント」

## 世界中で苦しむ人々のために

世界的な人道支援団体である赤十字社の一員として、武力紛争、難民問題、自然災害など世界各地で起こる危機に対し、赤十字国際委員会や国際赤十字・赤新月社連盟の調整の下、緊急救援から長期にわたる人道支援まで多岐にわたる活動に取り組んでいます。

### ① 国際救援・開発協力事業

◇北関東四県（埼玉・茨城・栃木・群馬）支部共同支援事業

- ・バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業への資金的支援（四県で200万円）
- ・インドネシア・コミュニティ防災強化事業への資金的支援（四県で200万円）

◇NHK海外たすけあいキャンペーン [12月1日～25日]  
（寄付88件・1,538,522円）



洪水発生注意の表示を設置する様子  
（インドネシア・コミュニティ防災強化事業）

### ② 国際交流・派遣事業

毎年実施してきた大韓赤十字社京畿道支社をはじめ各国赤十字社との訪問形式での交流は、新型コロナウイルス感染症による渡航制限により中止し、オンラインでの交流等を行いました。



大韓赤十字社 京畿道支社 RCY メンバーとのオンライン文化交流会

### ③海外救援金の受付

国外の大規模災害や紛争等に対して、被災国及びその近隣国での救援活動や復興支援のための海外救援金を受け付けました。

救援金名	件数	金額
無指定海外救援金	10件	211,850円
バングラデシュ南部避難民救援金	48件	435,905円
中東人道危機救援金	15件	297,169円
2021年ハイチ地震救援金	35件	91,446円
アフガニスタン人道危機救援金	31件	404,791円
トンガ大洋州噴火津波救援金	53件	886,703円
ウクライナ人道危機救援金	292件	26,858,670円
計	484件	29,186,534円



避難民に食料等物資を配付する赤十字ボランティア  
(ウクライナ人道危機)



避難民への支援  
(ウクライナ人道危機)

#### 事業報告

## 看護師の養成

令和3年度 歳出額 10,000万円

### 救援・救護活動ができる 赤十字看護師を育成するために

日本赤十字看護大学さいたま看護学部（運営：学校法人日本赤十字学園）では、日本赤十字社の使命である救援・救護活動を実効的に展開できる看護師を養成しています。今後の医療環境を見通し、未来に向けてリーダーとして役割が果たせる人材育成を目指しています。

授業（災害看護活動論）に支部から講師を派遣するとともに、運営に対して資金的支援を行いました。

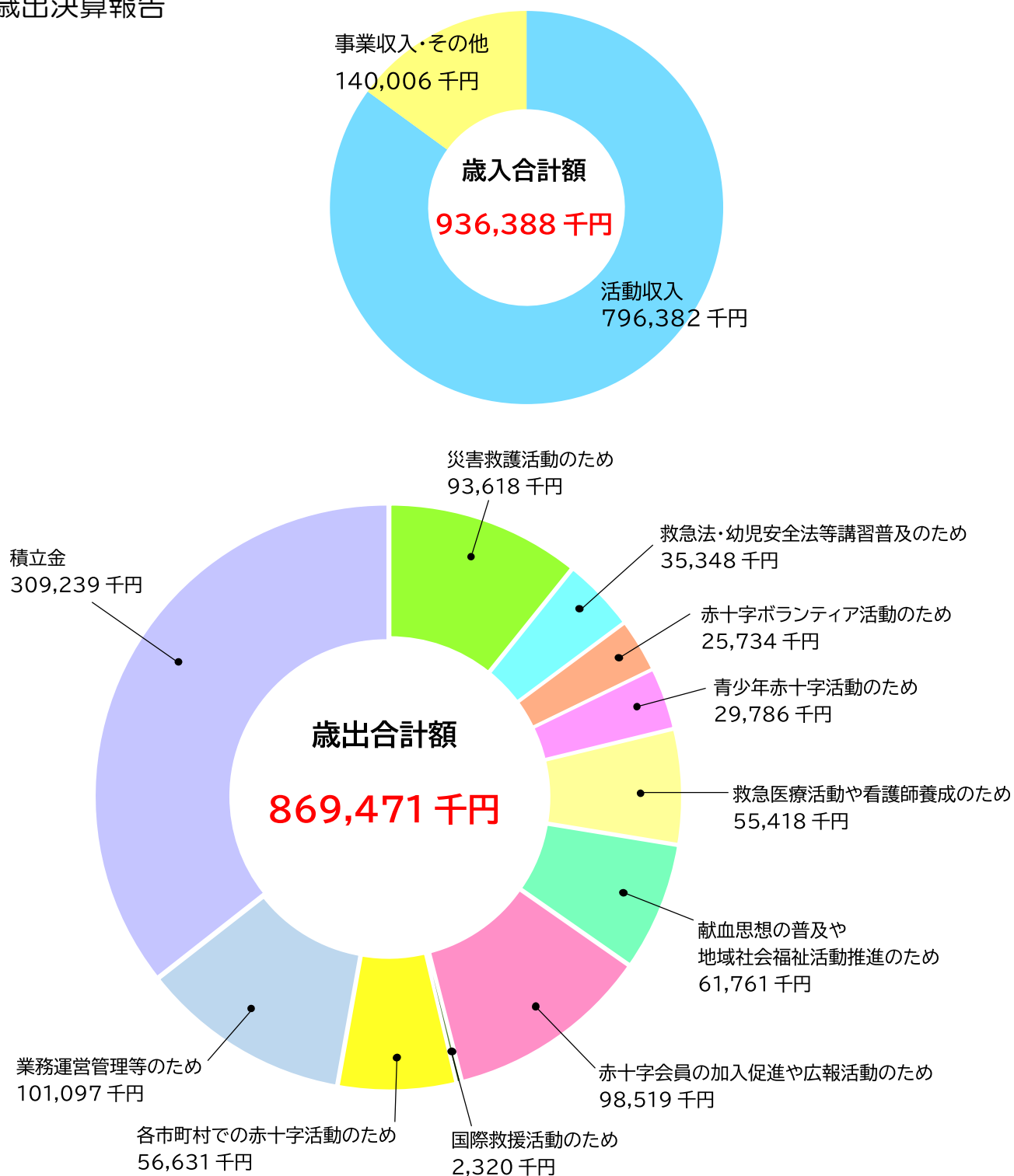


オンラインで学生に講義する支部職員

# 令和3年度 歳入歳出決算書

災害救護をはじめ「人間のいのちと健康、尊厳を守り、苦しんでいる人を救う」ための活動は、赤十字の理念に賛同し、共感し、支援して下さる方々（会員）によって支えられています。

## ①歳入歳出決算報告



◇差引額 66,917 千円は次年度に繰り越しました。

◇赤十字病院および社会福祉施設は施設ごと、血液センターは血液事業全体での特別会計のため、この収支報告には含まれていません。

## ②活動資金実績

目標額		実績額	
558,000,000 円		796,381,506 円〔達成率 142.7%〕	
内訳)		内訳)	
◇地区・分区扱い	400,000,000 円	◇地区・分区扱い※	380,430,357 円 〔達成率 95.1%〕 (市区町村)
◇個人・団体	118,000,000 円	◇個人・団体	369,812,968 円 〔達成率 313.4%〕
◇法人	40,000,000 円	◇法人	46,138,181 円 〔達成率 115.3%〕

※地域（市区町村）の赤十字窓口を通じてご協力いただいた寄付

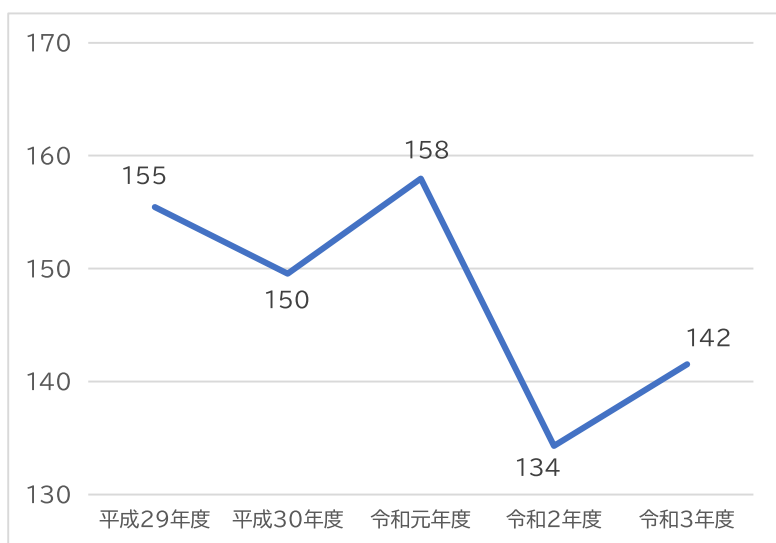
## ③指定事業活動資金・特定寄付金募集実績（再掲）

募集区分	目標額	実績件数・金額	
個人指定事業社資 (募集対象：個人)	30,000,000 円 (総務大臣承認に基づく額)	65 件	30,000,000 円 〔達成率 100%〕
法人指定事業社資 (募集対象：法人)	20,000,000 円 (財務大臣承認に基づく額)	37 件	20,000,000 円 〔達成率 100%〕

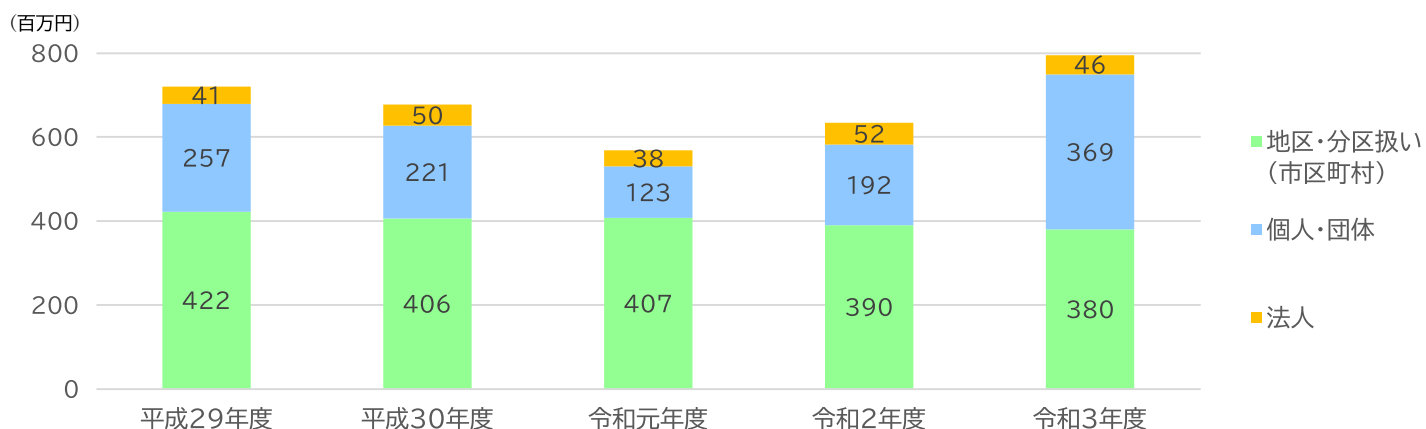
## ④管内施設への指定寄付金実績

施設名	実績件数・金額
さいたま赤十字病院	17 件 9,906,000 円
小川赤十字病院	1 件 30,000 円
深谷赤十字病院	5 件 448,008 円
小川ひなた荘	1 件 100,000 円
彩華園	1 件 100,000 円
埼玉県赤十字血液センター	2 件 600,000 円

## ⑤会員数の推移（過去5年間）



## ⑥活動資金実績の推移



# 埼玉県支部について

(令和4年3月31日時点)

日本赤十字社（本社：東京都港区）は、人道の理念に基づき、世界各国の赤十字社・赤新月社とともに紛争や災害、病気などで苦しんでいる人々に対する救援活動を行っています。

また、国内でも、地震・水害などによる被災者の救護活動や医療・血液・福祉など、幅広い分野で活動しています。これらの活動をより地域のニーズに合わせて行うために、各都道府県に支部を設置しています。

埼玉県支部の活動はすべて、財政面でご支援いただく赤十字会員や、活動の直接の担い手である赤十字奉仕団をはじめとするボランティア等多くの方々によって支えられており、1887年（明治20年）12月5日創設以来、135年にわたる活動を続けて現在に至っています。

## 日本赤十字社埼玉県支部及び管内赤十字施設の現勢

支 部 長	大野 元裕			血液事業	
会 員	個人・団体 139,047人 法人 2,472 法人				
青少年赤十字	・加盟校(園)617校 ・メンバー205,700人 ・指導者 12,109人				
	学校区分	加盟校数	メンバー数		指導者数
	幼稚園・保育園	130 園	17,425 人		2,804 人
	小学校	263 校	113,235 人		4,805 人
	中学校	158 校	61,944 人		3,570 人
	高等学校	64 校	12,914 人		790 人
特別支援学校	2 校	182 人	140 人		
赤 十 字 ボランティア	・奉仕団数 59 団 ・登録者数 6,758 人				
	種別	登録団数	登録者数		
	地域奉仕団	49 団	5,755 人		
	青年奉仕団	1 団	14 人		
	特殊奉仕団	9 団	932 人		
個人ボランティア	—	57 人			
講習普及事業	《講習実績》				
		講習回数	受講者	登録指導員数	
	救急法講習	136 回	3,360 人	213 人	
	水上安全法講習	13 回	526 人	55 人	
	健康生活支援講習	8 回	213 人	75 人	
幼児安全法講習	51 回	691 人	95 人		
国 際 活 動	・大韓赤十字社京畿道支社青少年赤十字メンバー・奉仕団との オンライン交流				
	・支部取扱海外救援金額 484 件 29,186,534 円				
災 害 救 護	・常備救護班 10 班 ・無線局 75 局				
	・救護車両 26 台(福祉施設分含む)				
	・支部取扱国内義援金 1,137 件 9,953,159 円				
	・配分救援物資 708 個(布団・毛布・緊急セット)				
医 療 事 業	病院 3施設				
	病院名	病床数	入院延べ患者数	外来延べ患者数	
	さいたま赤十字病院	638 床	199,493 人	342,922 人	
	小川赤十字病院	252 床	69,757 人	136,550 人	
	深谷赤十字病院	474 床	118,473 人	181,055 人	
社会福祉施設	◇特別養護老人ホーム 2 (総定員 165 人)				
	・小川ひなた荘 特養 55 人 ・彩華園 特養 88 人 ショートステイ 10 人 デイサービス 12 人 居宅看護支援				
職 員 数	埼玉県支部事務局 26 人				
	さいたま赤十字病院 1,442 人				
	小川赤十字病院 497 人				
	深谷赤十字病院 852 人				
	小川ひなた荘 24 人 彩華園 38 人 血液センター 211 人				



## 支部役職員

役職名	氏名	主な公職
支部長	大野 元裕	埼玉県知事
副支部長	原口 和久	埼玉県市長会会長・鴻巣市長
	古谷 松雄	埼玉県町村会会長・杉戸町長
	山崎 達也	埼玉県福祉部長
監査委員	西島 昭三	元日本赤十字社埼玉県支部副支部長
	小山 彰	公認会計士
参与	横田 淳一	埼玉県福祉部福祉政策課長
	岸田 正寿	埼玉県福祉部高齢者福祉課長
	坂 行正	埼玉県保健医療部医療整備課長
	芦村 達哉	埼玉県保健医療部薬務課長

## 代議員

役職名	氏名	主な公職
代議員	西島 昭三	元日本赤十字社埼玉県支部副支部長
	田中 憲次郎	会社役員
	関根 正昌	会社役員
	利根 忠博	埼玉県経営者協会 名誉会長 日本赤十字社理事(R3.4.1~)
	小野寺 貫一	会社役員
	黒瀬 節子	赤十字奉仕団 支部指導講師

## 評議員

氏名	主な公職	氏名	主な公職
岡田 悟	馬宮地区社会福祉協議会会長	並木 傑	新座市長
五十嵐光一郎	さいたま市北区地区運営協議会委員	小野 克典	桶川市長
松本 敏雄	さいたま市自治会連合会会長	梅田 修一	久喜市長
村田 博	大砂土東地区社会福祉協議会会長	三宮 幸雄	北本市長
富澤 洋	さいたま市中央区自治会連合会会長	香山 庸子	八潮市健康福祉部長
厚川 修一	さいたま市桜区土合第一自治会連合会会長	星野 光弘	富士見市長
石井 桂太郎	さいたま市浦和区自治会連合会副会長	木津 雅晟	三郷市長
細淵 紀雄	さいたま市南区武蔵浦和地区自治会連合会会長	中野 和信	蓮田市長
鈴木 甫	さいたま市緑区尾間木地区自治会連合会会長	石川 清	坂戸市長
三次 宣夫	さいたま市岩槻区自治会連合会会長	木村 純夫	幸手市長
佐藤 敦弘	川越市社会福祉協議会事務局長	齊藤 芳久	鶴ヶ島市長
近藤 正広	川越市福祉部長	谷ヶ崎 照雄	日高市長
植原 利和	熊谷市福祉部長	中原 恵人	吉川市長
中村 彩子	川口市福祉部長	高畑 博	心じみ野市長
安藤 森吉	日本赤十字社埼玉県有功会川口市支会長	藤井 栄一郎	白岡市長
福原 智	行田市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	大島 清	伊奈町長
北堀 篤	秩父市長	中野 松夫	宮代町社会福祉協議会会長
前田 広子	所沢市福祉部長	古谷 松雄	杉戸町長
岡田 茂穂	会社役員	坂巻 正士	松伏町いきいき福祉課長
新井 重治	飯能市長	林 伊佐雄	三芳町長
石川 雄一	加須市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	小峰 孝雄	鳩山町長
木村 登志男	本庄市社会福祉協議会理事	飯島 和夫	川島町長
今村 浩之	東松山市健康福祉部長	大澤 タキ江	長瀨町長
時田 美野吉	春日部市自治会連合会会長	原田 信次	美里町長
鷹野 勝利	狭山市福祉こども部長	矢部 吉春	寄居町社会福祉協議会常務理事兼事務局長
秋山 尚幸	羽生市市民福祉部長	清水 勇人	さいたま市長
高木 啓一	鴻巣市健康福祉部長	村田 俊彦	団体役員
小島 進	深谷市長	二重作 正次	会社役員
石川 孝之	上尾市社会福祉協議会事務局長	齊之平 伸一	団体役員
坂田 幸夫	草加市健康福祉部長	吉川 尚彦	埼玉県生活協同組合連合会会長理事
小田 大作	越谷市福祉部長	齋木 はな	元 赤十字奉仕団埼玉県支部委員会委員長
杉本 昭彦	越谷市社会福祉協議会会長	高橋 裕一	埼玉県青少年赤十字賛助奉仕団委員長
頼高 英雄	蕨市長	立花 洋一	会社役員
菅原 文仁	戸田市長	平本 一郎	会社役員
杉島 理一郎	入間市長	平 匠子	団体役員
松尾 哲	朝霞市社会福祉協議会会長	上木 雄二	埼玉県社会福祉協議会副会長
村上 孝浩	志木市福祉部長	吉田 秀実	埼玉県民生委員・児童委員協議会事務局長
柴崎 光子	和光市長		

(定員 75人)

# 県内赤十字施設一覧

## 支部

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字社埼玉県支部	〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 3-17-1	048-789-7117

## 赤十字病院

施設名	所在地	電話番号
さいたま赤十字病院	〒330-8553 さいたま市中央区新都心 1-5	048-852-1111
小川赤十字病院	〒355-0397 比企郡小川町小川 1525	0493-72-2333
深谷赤十字病院	〒366-0052 深谷市上柴町西 5-8-1	048-751-1511

## 社会福祉施設

施設名	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム小川ひなた荘	〒355-0321 比企郡小川町小川 1548-1	0493-74-2191
特別養護老人ホーム彩華園	〒360-0004 熊谷市上川上 266	048-524-1391

## 赤十字血液センター・献血ルーム

施設名	所在地	電話番号
埼玉県赤十字血液センター	〒337-0003 さいたま市見沼区深作 955-1	048-684-1511
日高事業所	〒350-1213 日高市高萩 1370-12	042-985-6111
熊谷出張所	〒360-0806 熊谷市奈良新田 398-1	048-525-1330
所沢プロバ通り献血ルーム	〒359-1123 所沢市日吉町 10-19 Tokorozawa ex 2F	04-2903-9277
川越クリアモール献血ルーム	〒350-1122 川越市脇田町 4-2 ドン・キホーテ川越東口店4F	049-225-8760
鴻巣献血ルーム	〒365-0028 鴻巣市鴻巣 405-4 埼玉県運転免許センター内	048-543-5511
大宮献血ルーム ウエスト	〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町 2-4-1 DOMPARTⅢ 5F・6F	048-658-5757
越谷レイクタウン献血ルーム	〒343-0828 越谷市レイクタウン 3-1-1 イオンレイクタウン mori 1F	048-987-3737
熊谷駅献血ルーム	〒360-0037 熊谷市筑波 2-112 JR 熊谷駅構内	048-525-8802
川口駅献血ルーム	〒332-0017 川口市栄町 3-1-24 川口駅東口ビル 3F	048-223-7661
埼玉製造所 <sup>※1</sup>	〒355-0071 東松山市新郷 493-1	0493-24-3111

※1 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センターの分置施設

## 看護師等教育施設

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 <sup>※2</sup>	〒338-0001 さいたま市中央区上落合 8-7-19	048-799-2747

※2 学校法人日本赤十字学園による運営。日本赤十字看護大学の東宮キャンパス。



人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

## 令和3年度 事業報告書

〒330-0064

埼玉県さいたま市浦和区岸町3-17-1

TEL 048-789-7117

FAX 048-834-1520



公式ホームページ

<https://www.jrc.or.jp/chapter/saitama>



公式 facebook

<https://www.facebook.com/redcrosssaitama>